

A-1 学校研究の概要

本校は、小学校や地域の関係機関との連携が功を奏して、近年は生徒集団も落ち着いてきている状況にある。この機会をとらえ、授業を通じた生徒指導を積極的に進めていきたい。逆に言えば、生徒指導の根本は、まず授業づくりであるととらえているからである。ここ2年間取り組んできた、生徒を主体にした「わかる授業」、「自ら学ぶ楽しさの味わえる授業」、「自他のよさに気づき自己有用感の持てる授業」をめざした「授業づくり」の工夫・改善を土台とし、知識・技能を活用する力を育む授業づくりを推進していきたい。このような授業の実践が生徒指導そのものであり、今、本校に最も求められているものであるととらえている。そのためにも我々教師の授業力の向上が大切になってくる。全教師が研鑽しあって各々の授業指導力を磨くことが、生徒一人ひとりの可能性を伸ばすことにつながる。

平成20年度、児童生徒の「活用力」向上モデル事業の指定を受け、「自ら学び、自己を高める生徒の育成 ～基礎的、基本的な知識・技能の習得を図り、「生きる力」を育む授業づくり～」をテーマとして研究実践を進めている。活用する力の向上は、新中学校学習指導要領第1章総則をもとにその具現化をはかることで達成できると考えた。

布水中学校の考える活用力の向上

創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、①基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な②思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、③主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

③から、「学習意欲を高める」ことが、活用力向上につながる。

②から、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために、また、必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむために、「学びの共同体」を推進する。

①を確実なものにするために、「基礎の定着、基本の理解の徹底」をはかる。

本年度は教師の授業力のさらなる向上を中心に、昨年度までの研究の成果「課題解決型の授業づくり」「わかる授業の具体的な姿」をさらに追究し、「学ぶ意欲を高める」「学びの共同体」「基礎の定着・基本の理解を徹底し、活用・応用をはかる」というそれぞれの分科会で得られた成果と課題を活かしながら、生徒の飛躍の土台となる学力の保証、学ぶ意欲の向上につなげる授業実践に主体をおき、以下のように取り組むこととした。

- 1) わかる授業、自他の関わり合いの中でお互いの良さに気づき、自己有用感の持てる授業の工夫を中心に、基礎的・基本的な知識・技能の習得を徹底した授業づくりを進める。
- 2) 必修教科、選択教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間等すべての授業の中の様々な体験活動等とおして、人との温かい関わり、生徒の「心」(感性)を育て、「生きる力」を育む。